

平成28年度 中国分小学校区内 三自治会合同

防災訓練のご案内

(中国分・堀之内・国分7丁目) 大地震などの災害はいつ起こるかわかりません。また、いつ起きてもおかしくないともいわれています。大規模な災害になればなるほど地域住民による助け合いが重要になることは、皆様もご存知のことだと思いますが、万一に備え、今できることを再確認しておくことが大切です。私たちが国分地区三自治会合同防災訓練は、訓練当日の午前9時00分に大地震が発生したと想定し、避難訓練を中心とした内容で実施し、住民同士が協力し、混乱を如何に防ぐことが出来るか、「自治会毎に住民をまとめることができるか」などを検証します。

訓練日:平成28年11月12日(土) 午前9時20分~12時

(受付:午前9時20分から9時50分まで) 避難者カード記入

雨天等による中止の場合は当日 午前7時に決定し自治会広報車で お知らせします。

訓練会場:市川市立中国分小学校校庭 (一時避難場所)

持ち物:なるべく大きいレジ袋、1枚 (縦65cm、横30cm程度のもの)

煙中脱出訓練の参加希望者は、タオル又はハンカチを持参してください。

資機材取扱い訓練(BOXトイレ組立) 応急救護訓練 AEDの取扱い

日用品を用いた応急救護法の説明

煙中脱出訓練 バケツ消火訓練

地震体験訓練

消防署 レジ袋(各自持参)の取扱い説明

(有)渡辺工務店「建忠会」様より

売上金57,802円を「寄附」今年も包丁研ぎやガレージセールを実施され、右記売上金を中国分自治会宛に寄附頂きました。ここに感謝申し上げますと共に皆様に「報告致します」。



市川市自治会連合協議会・市川市共催 恒例の「大講演会」開催のご案内 日:平成28年11月17日(木) 13時開場 入場無料

会場:市川市文化会館 小ホール 先着440名

第一部講演

テーマ:高齢者の健康維持と病気の予防 Part.5

がんの予防法や初期症状について 肺がん及び消化器がん

講師:国立研究開発法人

国立国際医療研究センター

国府台病院 院長 上村直実先生

第二部アトラクション

千葉県警察音楽隊 ふれあいサポート 定員になり次第締め切りになります

和洋国府台女子中学校の移転

十月二十一日(金)に同女子中学校・高等学校の校長先生が前市川市社会福祉協議会会長と共に来館され、現在、国分地区にあります「和洋国府台女子中学校」は平成二十九年四月より大学、高校のある国府台に移転し授業を行うことになりました旨の話がありました。現校舎等は、今後、従来通りグラウンドを含め使用し、他への売却などは一切考えていないとのこと。移転に伴う空き校舎には研究室などを移設し、教室の多くは部室等として活用して行く予定とのこと。バス停の名称変更

国立国府台病院

国立国府台病院よりの話によりますと京成バスの中国分線・市川松戸線で「国立病院前」の停留所の名称が十一月より「国府台病院前」に変更されるとのことです。お知らせまで。

秋まつり

【開催日】11月26日(土) 【時間】12時から14時30分まで 【場所】中国分小学校 【主催】中国分小コミュニティ サポート委員会 楽しいイベント盛り沢山です。

中国分自治会 主催 「交通安全 防犯講演会」

開催のお知らせ

市川警察署のご支援・ご協力により右記の講演会を左記の通り開催致します。 会員の方多数のご参加をお待ちします。 開催日時:平成28年12月3日(土) 午前10時~12時 会場:西部公民館(いこいの部屋) (講師)市川警察署担当官

わかばサロン中国分特別企画第2弾 『親が思うこと』

『子が感じること』開催される

去る十月十九日(水)、講師に中国分在住の小市裕子氏をお迎えして、「親子のかかわり方について」のお話し会が行われました。子育て中のお母様が7名と、10カ月から2才までのお子様8名、他に2名の方が参加されました。

小市氏は、「ご自分の子育ての経験も踏まえた専門家の立場から、快適に過ごす為の他者との交流の仕方について話をされました。子供たちは用意されたおもちゃで遊んだり、お母様の膝の上で一緒にお話しを聞いたりしていました。最後には、一人ひとりに言葉のカードが小市氏からプレゼントされ、その言葉について感想のやりとりがあり、1時間半の会は和やかなうちに終了しました。



国分地区社会福祉協議会主催

『ふれあいの集い』

10月23日(日)天候にも恵まれて、準備した三百の座席がほぼ埋まるほど大勢の方が出席してくださいました。国分地区

区社会福祉協議会人見会長(中国分自治会会長)に続き、市川市社会福祉協議会小島会長など来賓の方々挨拶に続いて、地域の方々による踊りや演奏などを楽しみ、プログラムの最後は、市川市消防局音楽隊による演奏。演奏前に緞帳が下りたまま動かなくなってしまうというアクシデントはありましたが、「上を向いて歩こう」を始めとする演奏は素晴らしく、会場からアンコールの声が上がり、音楽隊の方々が快く応えてくださり、「ふるさと」をスワップを含めた出席者全員で合唱して、楽しいひとときは無事終了しました。

中国分小学校 秋の運動会開催

雲一つない空と爽やかな風が吹く絶好の天候に恵まれた10月15日(土)、中国分小学校の運動会が盛大に行われました



散歩が防犯に協力

『防犯パトロール』隊員募集 毎週一回、約一時間、散歩をするつもりで、パトロールに参加しませんか? 最近空き巣が増えていそうです。丁目毎に夕方5時~6時から一緒に町内を歩きましょう。

月:3丁目。火:1・2丁目。水:5丁目。木:4丁目。金:青パト(自治会車によるパトロール)詳細は中国分自治会まで。

(9月21日~10月20日)

青色パトロール

回数:5回 走行距離:71Km 延べ時間:5時間30分 延べ人数:10人

犯罪状況

建造物侵入	3丁目	1件
空巣	4丁目	1件
住居侵入	5丁目	1件
空巣未遂	5丁目	1件

新井	蓮見
敏照様	紀雄様
87歳	76歳
5丁	2丁
10丁目	10丁目
184区	184区
8日	3日
班	班

中国分歴史探訪(その十六)
第二章 明治期・大正期・昭和期の
中国分街の変遷(その七)

第四節 明治期・大正期・昭和期の
市川の生活および生活空間の変容

第一項 市川の住環境の変遷

陸軍の駐屯は、鉄道交通機関の創設および整備並びに店街の操業による町の賑わい、商業収入の高騰、地元産業の活性化、遊園地事業の操業、三業組合(料理屋・待合茶屋・芸妓置屋を指す)や割烹旅館の発展に影響を与える極めて大きな要因となった。

明治の後期は、日本国が置かれていた世界情勢を鑑みると、一地方の町が地方中核都市への変革を図るためには、軍事関連に密なることは必須の条件ではなかったかと推測される。

この様な国分台地の変容の中にあつて、東練兵場および射撃訓練場であつた国分台地の一地区(現在の中国分)は、どの様な状況であつたのであろうか。
生活空間である居住地域の変遷の時間的経緯を考慮した動態地図で検証する。

明治十三年七月、千葉県下総国東葛飾郡市川駅近傍村落地図(陸軍参謀本部による迅速測量二万分之一のフランス式彩色地図)(図一)によると、住宅は、市川駅周辺に密集して立ち並んでいた様子がみられる。その他の住宅密集地域は、須和田村、真間村、国分台村、矢切村、上矢切村、大橋村、国分村(国分台地南端)などであつた。その他の多くの地域は、畑、田および林が占めていた。

さて、当時の国分台地北側の地区は、大部分の土地が畑であり、北側の地区には、松や櫟など雑木の雑木林が占めていた。国分台方面から専菜池を越えて当地区を横断して現在の堀之内へ向かう道路がみられ、当地区の主要道路であつた。

現在の中国分四丁目北寄りに住宅を思わせるマークがみられるが定かではない。

平成八年頃に書かれた当地区想定図(図二)には、「十五代続く屋号シモヤシキ」との記載が残されており、さらに「専菜池のほとりに住んでいた「サハイ」さんと「ジエム」さんが副業に専菜池で専菜を採っていた」との記載がある。いずれにしても、住居

を建て、人々が集い生活圏を構築できるように整備された地区ではなかったようだ。

明治四十年頃の陸軍参謀本部による測量図(図三)によると、国分台地区には、野戦砲兵第十六連隊・第十七連隊・第一連隊の兵舎が広い地域を占めていた様子がみられる。

市川町の住宅密集地域は、範囲を拡大して住宅の数が増しており、また国分台坂下地区に「根本」の地名がみられ、この地区の急速な人口増加がみられる。
当時、根本の街は、根本発展会が成立し市川では最も早く栄えた地域となつた。

国分台地には、新練兵場および陸軍射撃場の記載がみられる。しかし、新たな住宅の増加はみられなかった。
平成七年頃に書かれた大正時代の当地区想定図(図四)によると、国分台には、野戦砲兵第十五連隊・第十六連隊・第十七連隊が駐屯していた。

また、総寧寺境内には陸軍病院が設置され、江戸川近くに八景園が開園しており、市川・松戸道路から真間川畔沿いに桜並木が造られ、陸軍御用達の店舗など軒を並べて軍事都市として完成された形を整えつつあつた。

当時、とくに興味を持たれるのは、遊園地が日本各地に登場していたが、大正十一年から大正十三年に里見八景園と言つ遊園地が開園(現在の里見公園内)し、昭和八年まで続いたことである。
また、現在の京成電鉄国分台駅近くに、火力発電所(明治四十四・大正三)の名称が記載されている。

里見八景は、富士の白雪、葛西の落雁、安国の晩鐘、武蔵の春嵐、利根の帰帆、戦場の夜雨、赤壁の秋月、市川の夕暮が挙げられ、江戸名勝として知られたものも含まれていた。

さて、国分台地の一画(現在の中国分)は、陸軍射撃場と三角山、東練兵場と監視所、陸軍墓地、馬頭観音像(馬の墓地)などの記載がみられ、専菜池や不入斗(いりやまず)そして道免谷津(どうめきやず)に囲まれた荒涼とした風景をみせていたのであらうか。
昭和三年、松井天山制作の市川地域鳥瞰図(図五)によると、地方中核都市として発展した市川は、完成された軍事都市とし

て極めて精密に描かれており、高い商業力と経済力、芸能の展開、食文化の高揚を感じさせた。

一方、専菜池と姫宮の名称については、欄外と思しき最上段に小さく掲載されており、その存在は極めて軽いものであつた。当時は市川のチベットと称された時期があつた。

昭和九年頃の陸軍参謀本部の測量図(図六)によると、国分台には、騎馬砲大隊、野重砲七連隊が駐屯していた。
市川駅周辺の住宅密集地域は、人口密度を増加させつつ真間地区、須和田地区、根本地区および国分台地区方面へ拡大して街並は連続していった。国分台地の下側地域には六反田と根古屋の地名もみられ、住宅が密集していた様子がみられる。

また、住宅地は平川および北台方面へと拡大していった。
国分台地の北側一画(現在の中国分)は、東練兵場および陸軍射撃場の記載がみられるのみで、大部分は雑草地であり、数個の住宅を思わせるマークがみられるが定かではない。

昭和二十年、第二次世界大戦終結時の想定図(図七)によると、国分台地の北側一画(現在の中国分)は、陸軍射撃場の記載がみられる。また、南端の一画に高射砲陣地とともに、十数棟の高射砲兵舎がみられ、この期になって人々の痕跡を垣間見ることが出来る。

軍事都市の日常としては、陽のあるうちは、当地(中国分)では激しい小銃発射音が鳴り響き、軍隊の教練の雄叫びが響き渡っていたのであろうか。夜の帳がおりる頃、静寂が戻り、荒涼とした台地が闇に沈んで人影も無かつたのであろうか。

一方、国分台地域では、華やかな夜の営みが繰り返されていたのであろうか。
人々の日常的な生活空間が当地区(中国分)に構築されるまでには、幾ばくの年月の経過を要したのであろうか。

中国分自治会
中国分史書編集委員会
吉岡、安達、三上、小林

市川 国分・国分台近傍の地域図

図一 明治十三年 陸軍参謀本部測量図

図二 明治十三年 国分周辺の想定図



図三 明治四十年 陸軍参謀本部測量図

図四 大正時代 国分村の想定図



図五 昭和三年 市川地域鳥瞰図(部分)



図六 昭和九年 陸軍参謀本部測量図

図七 昭和二十年 終戦時の想定図

